

## C14b 「小さな天文学者の会」の活動と研究機関の社会貢献

柴田 晋平、大野 寛、 齊藤 洋子、 大野 智宙、 金井 陽子、 土田 淳一、 山口 康広、 盛合 裕介  
(小さな天文学者の会)

「小天」は、「宇宙を見て感じて楽しもう」を第一目標にして活動する会員 83 名の市民団体です。さらに、星空を楽しむことや科学する心を広く社会に伝えるためのボランティア活動をし、そのための教材研究もしています。スタートは山形大学宇宙物理研究室ですが、現在の会員構成は 51% が一般市民で、徐々に地域社会に根付きつつある段階です。

具体的な活動は：繁華街でおこなう「街角で月を」、各季節の「星空散歩」、「望遠鏡を作って、観る(体験学習会)」、「公開講座」などのイベント; それらを出前で小学校・公民館で実施; 会員のための講習会; 会報・テキストの出版、などです。

研究機関の成果の還元というと一般公開・公開講座といったものが主流と思われませんが、興味ある市民が自らのニーズを実現するように、研究機関に入り込んで企画するのがより成熟した方法だと私たちは考えています。研究者と市民がニーズや成果を互いに理解するという理想に近いものが実現する可能性があります。この方法が進化すると、「会」自らのニーズに応じて研究者や機関を選んで希望する事業を実現するでしょう。研究機関は得意とする分野にのみに集中して洗練された研究公開の方法や教材を開発することができます。また、会は市民に宇宙の楽しさを伝えることができ満足感を得ることができます。結局は、NPO 組織や社会教育施設が研究機関と連携を深めることでより有効かつ効率の良い天文の普及活動が可能になると思います。講演では、会の活動を紹介したあと、このような科学と社会のいい関係を確立するための仕組みについて議論をしたいと思います。